

矢作川流域 上下水道広域連携協議会 設立総会

議事概要

日 時：2025年12月26日（金）午前10時から午前10時50分

場 所：愛知県本庁舎 2階 講堂

出席者：別紙のとおり

1. 開会（愛知県知事挨拶）

- 水道・下水道は、それぞれの法律の目的にもあるように、清浄にして豊富低廉な水の供給、公衆衛生の向上や生活環境の改善、都市の健全な発展に向け、必要不可欠なインフラとして、各自治体が地域住民サービスを提供してきた。
- 一方で、上下水道事業を取り巻く環境は、人口減少に起因する料金収入の減少や、熟練職員の退職といった人材不足によるサービス水準の低下など、今後厳しさが増していくことが見込まれる。
- 加えて、能登半島地震での広範囲な断水や、埼玉県八潮市の事故による大規模な下水道の使用自粛など、災害や事故に備えるため、上下水道施設の地震対策や老朽化対策も強く求められている。
- この西三河地域においても同様に、今後も人口減少が見込まれる中で、発生が危惧されている南海トラフ地震への対策や高度経済成長期に整備した管路の老朽化対策など、上下水道事業が抱える課題に対し、将来を見据え、地域一丸となって早急に取り組んでいく必要がある。
- 上下水道一本化は、県と市町で水道事業と下水道事業の運営を一つにする全国初の取組である。下水道において一本化した事例はなく、それを上下水道でやっていこうという画期的な取組である。
- この上下水道一本化により、効率的な事業運営を図り、地震対策や老朽化対策を着実に進めるなど、強靱で持続可能な上下水道事業の実現を目指すものである。
- モノづくり愛知を牽引する西三河地域から、上下水道一本化を通じて、県民の皆様の安全・安心な暮らしを支えるとともに、本県の先進的な取組をトップランナーとして全国に発信してまいりたい。
- 協議会を設立することで、協議を一層加速させ、早期に新たな運営体制を構築したいと考えている。引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

2. 議題

(1) 矢作川流域 上下水道広域連携協議会 設立趣意書（案）について

- 「矢作川流域 上下水道広域連携協議会 設立趣意書（案）」について事務局から内容を説明し、原案のとおり承認された。

(2) 矢作川流域 上下水道広域連携協議会 規約（案）について

- 「矢作川流域 上下水道広域連携協議会 規約（案）」について事務局から内容を説明し、原案のとおり承認された。

(3) 今後の進め方について

- 「今後の進め方」について事務局から内容を説明した。

3. 出席者発言

岡崎市長

- 岡崎市の上下水道事業は、老朽化・地震対策等の課題が山積しており、経営環境は大変厳しくなっている。
- 生活と経済を支える上下水道を将来にわたって持続可能な経営基盤を確保するためには、一本化による経営規模の拡大は、望ましい形と考えている。
- 固有の安定した水源を保有している本市の強みを広域連携においても活かして検討を進めていきたい。
- 中枢中核都市として皆さまとしっかり議論を重ね、西三河地域における上下水道広域連携が醸成し、有益なものとなることを期待している。

碧南市長

- 上下水道事業の一本化の全国初の取組として、準備段階から参画してきた。
- 人口減少や施設の老朽化、職員不足といった課題に対応するため、愛知県及び9市1町のスケールメリットを活かし、施設の共同化や管理の一体化を進めることで、料金の抑制を始め業務の効率化、カーボンニュートラルの推進、災害対応力の強化を図り、持続可能な上下水道のサービスの実現を目指すとともに、この取組が他県の好事例となることを期待している。

刈谷市長

- 刈谷市の上下水道事業においては、南海トラフ地震等の大規模災害への備えとして、施設や管路の耐震化を進めていくとともに、漏水や道路陥没といった事故を未然に防ぐため、管路の老朽化対策を加速させる必要がある。
- これらの財源を確保しながら健全経営を維持していくためにも、来年4月に

は上下水道料金の改定を予定している。

- 広域連携への具体的な取組みについて検討を進めることで、耐震化対策等が推進されることや上下水道料金の上昇抑制に資することを期待している。

豊田市長

- 豊田市は平成の合併で、7割が森林という都市形態である。
- そういう中で、水源を守る山側の住民が高額な水道料金を負担し、サービスを享受する街側が相対的に安価な料金で済んでいるという矛盾を感じる。
- 改めて水道が広域行政であるべきだと思う。
- 今回、料金統一を要しない形態でスタートされるが、将来的には料金統一についても議論の対象にしていただきたい。

安城市長

- 協議会は、上下水道事業における、技術職員の不足、そして施設の耐震性や老朽化、料金収入の減少というヒト・モノ・カネに関する共通の課題に対処する重要な協議の場であると承知している。
- 西三河地域の上下水道資源の有効活用やコスト削減などに向けた取組を丁寧に議論しつつ、推進していくことで、広域連携のメリットの最大化が図られ、利用者にとってもより良いサービスにつながることを期待している。

西尾市長

- 西尾市は、10月に水道料金の改定を実施した。下水道使用料は、先日、審議会より改定すべきとの答申をいただいたところである。
- 上下水道事業ともに、将来を見据えると、今後も段階的な料金改定は避けられないものと考えているため、協議会設立を受けて、具体的な項目の検討が加速され、一本化によるメリットや、課題等の論点がより明確となって、料金値上げ抑制への道筋が開けることを、大いに期待している。

知立市長

- 本協議会の設立は、上下水道事業の持続可能性を確保するための、大きな一歩であると捉えている。
- 知立市も、限られた職員体制で事業を運営しており、施設の老朽化や人材の確保といった課題に直面している。広域での連携により、施設の共同化や業務の効率化が進むことは、非常に意義深いものと受け止めている。
- 協議会設立を契機として、市域を超えた連携による、その効果の具体的な議論がスタートすることで、矢作川流域の各自治体と愛知県がともに手を携え、スケールメリットを活かした効率的な事業運営を実現し、コスト縮減や災害時の対応力強化など、困難な時代を乗り越える力となることを期待している。

高浜市長

- 高浜市は、西三河地域のなかでも比較的規模の小さい自治体であり、人口減少による水利用の減少や物価上昇による経費の増大など、厳しい経営状況など様々な課題を抱えている。
- 広域的な組織で、効率的な運営ができることは大きなメリットがあると考えており、上下水道一本化で得られる効果には大きな期待を寄せている。

みよし市副市長

- みよし市の上水道事業は別組織で行っており、下水道事業のみとなるが、経営規模が拡大され、料金上昇の抑制、災害対応力の強化及び一つの組織となることで技術職員の確保等の人材不足解消につながることを期待している。
- 本市で管理する農業集落排水の施設及びコミュニティ・プラントの施設を公共下水道への統廃合を実施していくが、協議会設立を受けて、事業の更なる推進につながることに期待を寄せている。

幸田町長

- 幸田町の上水道は県水からの供給が100パーセントである。下水道は約80パーセントを矢作川流域下水道にて汚水処理をお願いしている。
- 広域連携により、施設の統廃合や業務の共同化が進み、協議会の目標のひとつである、料金上昇の抑制につながるよう力を合わせていきたいと考えている。

愛知県知事

- 設立総会の開催により、上下水道事業の抱える様々な課題解決に向けて大きな一歩を踏み出すことができたことに感謝する。
- 各市町からは、人口減少や、施設の老朽化、人材確保など共通課題を抱えていること、また広域連携による効率化、災害対応力強化、料金上昇抑制への期待を伺った。上下水道の一本化をめざし実現することが、安定した事業運営につながるものと確信した。
- 料金を下げることは難しいが、出来るだけ上がり方を抑えていくことを、何としても皆様と実現していきたい。
- また、東三河地域についても、西三河地域をモデルケースに検討を進めており、年が明けたら早期に準備会を立ち上げていく。更に、尾張地域にも次の準備会を設立できるよう急ピッチで広げていき、県民の皆様の期待に応えられるよう取り組んでいく。
- 西三河地域が一丸となってスケールメリットを活かし、将来世代に誇れる持続可能な上下水道サービスを提供できるよう、引き続き、皆様のご協力をお願いしたい。

以上